

会 議 録

会議の名称		令和元年度第2回守谷市地域包括支援センター運営協議会		
開催日時		令和元年8月22日（木） 開会：午後1時30分　閉会：午後3時		
開催場所		守谷市役所 大会議室		
事務局 (担当課)		保健福祉部 介護福祉課		
出席者	委員	城賀本会長，星野会長代理，地引委員，市塚委員，今井（由）委員，坂本（美）委員，高橋委員，戸田委員，坂本（晴）委員，佐藤委員，今井（早）委員　計11人		
	その他			
	事務局	稲葉保健福祉部次長兼介護福祉課長，森山地域包括支援センター所長，鈴木介護福祉課長補佐，市村係長，芳師渡係長，　計5人		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
公開不可の場合はその理由				
会議次第		1 開　　会 2 あいさつ 3 報告事項 (1) フレイル予防教室（あした教室）の評価について (2) 地域包括支援センター業務評価について 4 そ　　他 (1) 地域包括支援センター運営事業業務委託法人公募の状況と委託開始までの日程の説明 5 閉　　会		
確　定　年　月　日		会　議　録　署　名		
令和元年12月16日		城賀本満登		

審 議 経 過

1 開会

2 あいさつ

3 報告事項

(1) フレイル予防教室（あした教室）の評価について

平成30年度から始まったフレイル予防教室の、教室を計画した背景・主旨・内容・評価について報告し、今後の事業展開に向けたご意見をいただきました。

【主な意見等】

委員： どういう方を対象に選ばれたのか、今後6地区でもやっていくのか、教えてください。

あと、フレイルという言葉が非常にわかりにくいです。

事務局： フレイルに関して、専門職である委員から、簡単に分かりやすく説明していただけますでしょうか。

委員： 歳をとることによって、動かなくなること、食べられなくなること、活動しなくなることで引き起こされる、身体状況が低下する症状と考えていただければと思います。

事務局： 第7期の守谷市高齢者福祉計画・介護保険計画を作成するために行ったニーズ調査の結果を基に大井沢地区を対象にしました。今後は、大井沢地区に限らず少しずつ地区を増やし、守谷市全体的でやっていければと考えております。

委員： 対象者の方に事前に家での役割りや仕事、興味があること、普段どういふことをしているとか、聞き取りはしましたか。

事務局： 日頃の役割りや家事、運動の状況と、終了時どうなったかというアンケートの取り方はしていませんでした。取っておくと、どのくらい変わったか参考になると反省点として意見があがりました。

委員： 最後の課題のところですが、ウォーキングや体操というのは目的が見いだせない方もいるので、続けるのは難しいです。役割りや仕事、趣味、興味分野につながれば、体を動かすことを続けられると思いますので、そういう部分も考慮していただければと思いました。

委員： 地域を巻き込む体制作りですが、参加者2名から積極的に体操教室が始まったことはすごく良かったです。サロンは沢山できていますが、新しい人が入るきっかけは難しくなっていると思います。該当する方全員に案内を出して、新しい人が参加するきっかけになったと思いました。

事務局： 今回教室ができた地区もサロンはありますが、サロンに行っているのは80歳代以上の方たちで、70歳代だと家事をしているので、1日拘

束されるのは厳しいが、地域の方との関わりは持ちたいから2時間の体操、そういうのを作りたいという意向でした。そういう意向が出た時に、できるだけバックアップをしていければと思います。

事務局： 今回、サロンの代表者の方を通じて集める手法をやめて手紙を送りました。単に『やりますよ』ではなく『この地区はこういう傾向ですよ』と、フレイルという言葉とこの地区で起きている地区課題も入れて啓発をさせてもらったということを補足します。

会 長： グラフ3で疾患の比率ですが、多分、前期高齢者と後期高齢者では疾患の分布は違うと思うのですが。

事務局： はい、そうです。年齢別では疾患も変わって、70歳台半ばくらいまでは悪性新生物などが多いのに対し、70歳代後半くらいになると、整形疾患や認知症が増えてくるとか、年齢ごとに疾患は異なります。グラフ3は男女別のグラフの作り方をしていますので、年齢ごとに見ていくと違う部分があります。

会 長： 今問題になっているフレイルがどこに入るかは、医者の方もフレイルと診断をあまりつけないものですから、比率は難しいと思います。

あと、厚生労働省が『通いの場』を地区ごとに作って地域づくりの中心にというような話をしていますが、この事業は将来的にそういうものを作ろうということをやっているわけですか。

事務局： 国が介護予防と保険事業の一体的取組みということで推進しています。そこに専門職が出向いて啓発、色々な教育をするような事やっけていきたいと思います。守谷はやっています。守谷の場合はサロンで地区展開している歴史があります。この事業とサロン活動、住民主体の集まりの場をどう紐づけしてやっていくかということです。

会 長： 介護予防と考えると、少なくとも前期高齢者という60歳代くらいからやらないと、介護予防・フレイル予防ということにはならないのではと思いますが。

事務局： 教室という形で実施し、そこにリーダーになる人が参加してくれると、サロン活動ではなく、もっと若い世代で始めたい、そういう活動になってくれれば良いという構想です。

会 長： 多分それが『通いの場』という考え方の基本だと思います。ですから、さっきの2人の方がでられたのは非常に良いことだと思います。行政として、そういう方を育てる、活動継続のための支援、そういうのを考えなければいけないと思います。

事務局： ボランティアさんや運営する人をどう考えるか、市はどこまで介入するか、最終的には人づくりになると思います。まちづくり協議会の中で出てくる可能性もありますし、そういうところを市はマッチングできるような形で、人材育成という観点では、議論している最中です。

委 員： 対象者を女性に絞ることですが、男女差別になるのではないですか。

事務局： あえて女性にしたのは、介護認定の状況に男女差があり、フレイルに近い要支援認定者の女性が増えていて、新規の介護認定者が女性は整形疾患で、骨折や転倒という問題点があるところで、そこを強化するという構想で今回は計画しました。

会長： 女性はフレイルになるのが、わりとゆっくりと言われています。女性の方がその間が長いから、いろいろ指導しやすいですか。

委員： 介護予防教室の評価で、運動機能の身体機能チェックに偏っているのは、何か理由がありますか。

事務局： この教室を企画するにあたり、女性の整形疾患が多く、閉じこもり的ということで、下肢筋力強化が中心という形になりましたが、他の視点も検討する必要があると思いますので、こういうものを入れた方が良いというものがあれば教えていただければと思います。

委員： データを見せていただき、転倒や認知症、整形疾患に繋がりやすいのは転倒と考えると、やはり認知機能の評価ですね。老年期うつがフレイルの問題と非常に強く繋がっているという報告があるので、うつの評価を入れると今後の役に立つのではないのでしょうか。

事務局： 参考にしたいと思います。ありがとうございました。

会長： 確かに運動中心で、あしたの歩く・しゃべる・食べるですから、社会的なものとか、心理的なものを入れた方がよろしいと思います。

(2) 平成30年度守谷市地域包括支援センターの事業評価について

平成29年度と平成30年度の事業実績評価の比較を報告し、意見をいただいた。

【主な意見等】

委員： 達成度が大分改善されて非常に効果が出てきていると思います。今やっている外部委託が決まると、更に100%に至ってないところが100%に近くなるのか聞かせてください。

事務局： 来年度から包括が委託ということになりまして、委託した包括と市との連携体制等を整えていけば、それに伴い結果は向上していくと考えておりますし、そのようにしていきたいと考えています。

4 その他

(1) 地域包括支援センターの委託に向けた状況について

来年度からの地域包括支援センターの委託に向けた状況の報告と、今後の日程等について説明をしてご意見をいただいた。

【主な意見等】

会長： 二つは考えていた北と南で場所的には合っていますか。

事務局： 北と南に分けて包括支援センターを設置することになっていますが、そこにある事業所でないとできないのではなくて、それぞれの地区に地域包括支援センターを設置していただければ良いことになっていきますので、説明会に参加した法人がどの地区に手を挙げるのかは、まだ市では把握しておりませんので、どうなるかというところではあります。

会 長： 介護予防は、地域包括支援センターの業務になりますか。

事務局： 今回委託させていただく業務は、包括的支援事業のうち、総合相談、権利擁護、包括的継続的ケアマネジメント支援、要支援認定者のケアプラン作成になっておりまして、介護予防に関する業務は市に残ります。委託包括と連携を図りながら、市で強化していくと考えております。

(2) 次回の会議日程について

令和元年10月24日(木)に開催することとなる。

5 閉 会